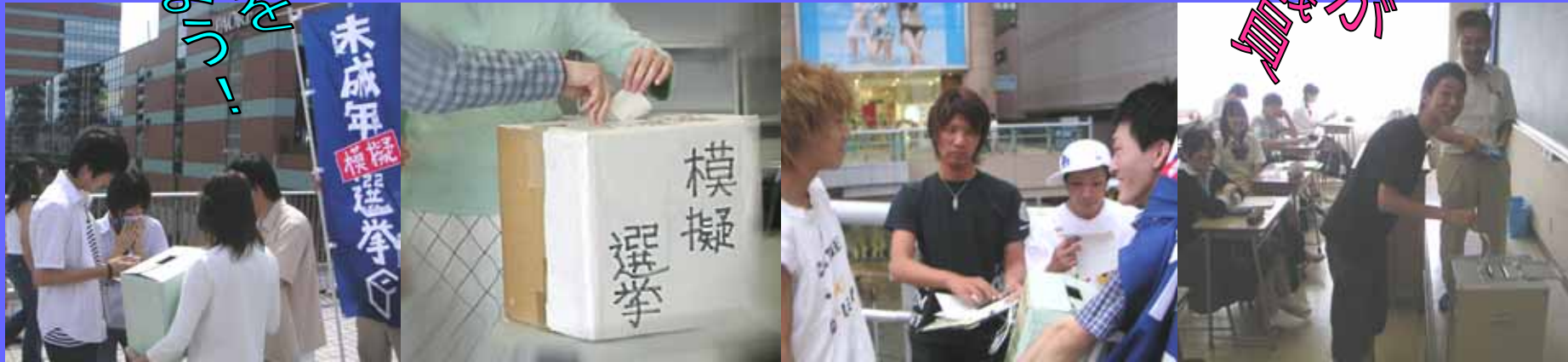


未成年「模擬」選挙 ハンドブック2005

子どもたちの政治への意見を！

選挙・模擬選挙の準備



特定非営利活動法人Rights <http://www.rights.or.jp>

未来の有権者が模擬選挙を通じて、 主体的な意思決定を学ぶ！

模擬選挙の意義・目的

未成年「模擬」選挙とは？

- 1: 有権者ではない19歳以下が、実際の選挙日程にあわせて、実際の選挙の立候補者または政党(国政選挙における比例区)に対して記名投票を行う
- 2: 学校や地域など各地で投票された模擬選挙の結果は、Rightsが集計し、実際の選挙の投票結果が公表された後に、一般に対して公表しあわせて立候補者、マスコミ、各種団体などに届ける
公表が不可能な場合はこの限りではない

未成年「模擬」選挙3つのメリット～未来の有権者が模擬選挙を通じて、主体的意思決定を学ぶ！

1: 民主主義を体感

政治に対する関心を高め、それまで知らなかった地域の課題、社会的な問題に気づき、考えるきっかけとなり、社会の一員としての責任と自覚を感じます

2: 有権者を育てる

実際の選挙と連動した模擬選挙を通じて、誰も教えてくれない投票方法や立候補者・政党などの選び方を学びます

3: 投票率UP

“政治”についての対話が家庭や地域で生まれ、実際の有権者(保護者、兄・姉など)に対する投票の働きかけにつながります

実施上の留意点(詳細は後述)

- ・実施にあたっては公正性、中立性に留意し、特定の政党の支持や政治的思想の推進を行わない
- ・実際の選挙に関与しないようにする
- ・「模擬」選挙の集計結果は、本選挙の票数が確定するまで(選管発表があるまで)は一切公表しない
- ・公職選挙法に違反しないように留意する(特に、公職選挙法第138条の3「人気投票の公表の禁止」)



投票する小学生(04参院選)

@六本木“模擬”投票所

模擬選挙のあゆみ

これまでRightsが関わった模擬選挙のみ

投票数のカッコ内は有効票数(投票数合計:8166 / 有効票数合計:6864)

模擬選挙の歴史

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

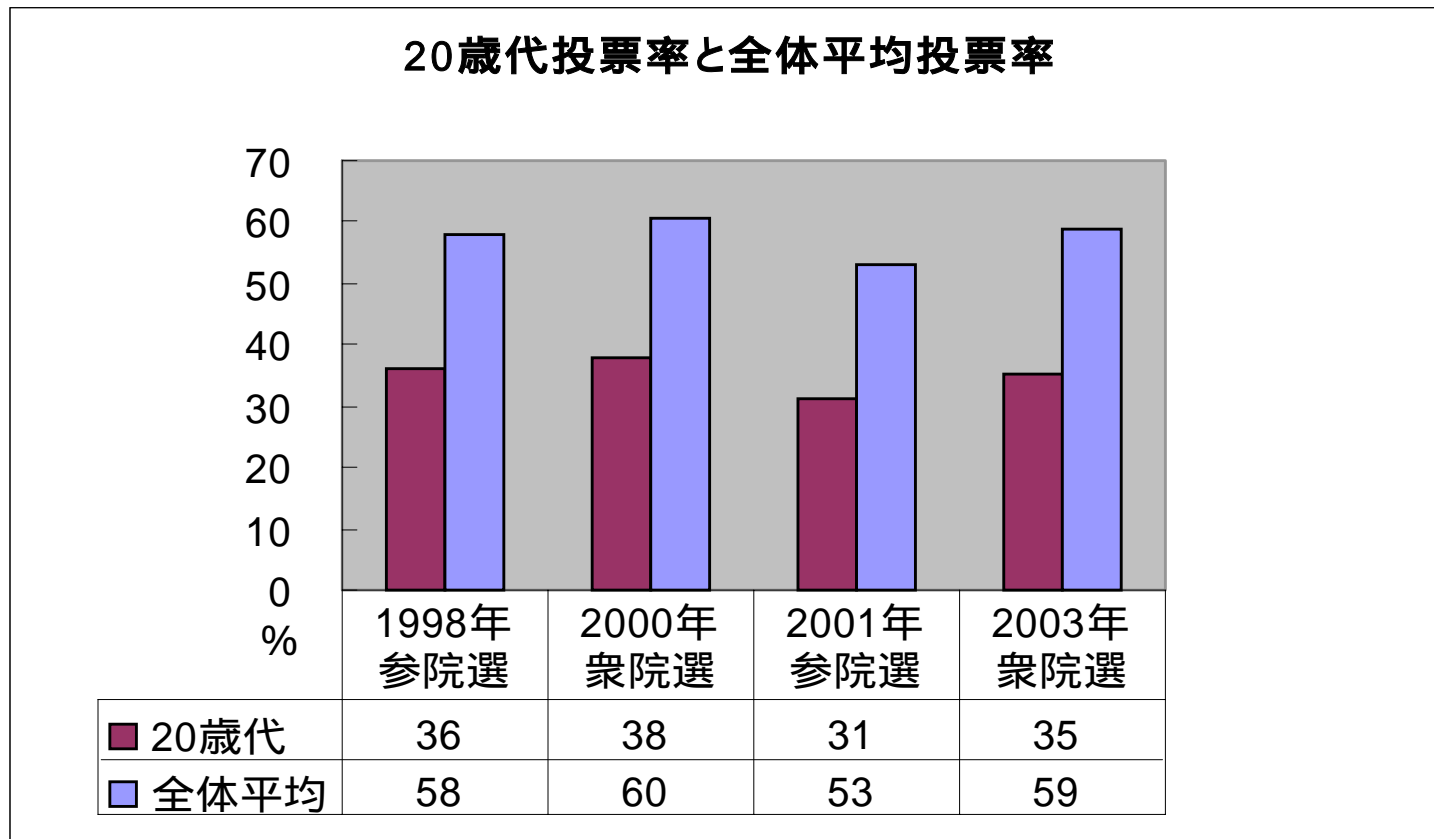
| 実施選挙 | 実施期間 | 投票数 | 特 色 |
|---------------|-----------------------------|------------------|---|
| 町田市長選挙(東京都) | 2002年2月17日(日) ～2月24日(日) | 91票 (91票) | <ul style="list-style-type: none"> ・Rightsとして初めて模擬選挙に取り組む ・立候補者5名の事務所を高校生が訪ねる「選挙事務所探検隊」「10代による公開質問状」を実施 ・町田青年会議所の有志が協力 |
| 多摩市長選挙(東京都) | 2002年4月14日(日) ～4月21日(日) | 152票 (140票) | <ul style="list-style-type: none"> ・街頭投票に初めて取り組む ・「選挙事務所探検隊」「10代による公開質問状」を実施 ・公開討論会を行なったメンバーと協働で取り組む |
| 第43回衆議院議員総選挙 | 2003年10月29日(水) ～11月9日(日) | 2145票 (2009票) | <ul style="list-style-type: none"> ・比例区(政党別)での投票を呼びかけた ・全国から7校、1地域(岐阜1区)が参加 ・主要5政党からマニフェストとポスターの提供を受けた |
| 第20回参議院議員選挙 | 2004年6月25日(金) ～7月11日(日) | 4826票 (3658票) | <ul style="list-style-type: none"> ・全国から21校、1地域(岐阜県)が参加 ・主要5政党の政党本部を中高生世代が訪問し、国会議員と意見交換する「政党本部探検ツアー」と、「10代による公開質問状」を実施 |
| 千葉県知事選挙 | 2005年2月25日(金) ～3月13日(日) | 485票 (445票) | <ul style="list-style-type: none"> ・千葉マニフェスト討論フォーラムと協力し、合同個人演説会が行なわれた5ヶ所のうち2ヶ所で模擬選挙を実施 ・県内に支局を有するマスコミ5社から「名義後援」をいただいた |
| さいたま市長選挙(埼玉県) | 2005年5月2日(月) ～5月15日(日) | 125票 (119票) | <ul style="list-style-type: none"> ・街頭投票を中心に投票を呼びかけた ・「10代による公開質問状」を実施 |
| 東京都議会議員選挙 | 2005年6月24日(金) ～7月3日(日) | 342票 (402票) | <ul style="list-style-type: none"> ・都内の学校3校(高校2、匿名1)が参加 ・選挙管理委員会から投票箱や選挙公報の提供を受ける ・区部および市部、計4箇所街頭投票を行う |

ますます低下する20代投票率

民主主義の危機

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

(1) 「小泉人気」がつづく中、
20代の投票率は他世代と比べて非常に低くなっています



東京都選挙管理委員会公表データより作成

関心があるのに投票に行かない？

民主主義の危機

(2) 一方、若者(18歳～24歳)の政治への関心度は高まっています

日本の政治が「良い方向にすすむ」という20歳代の回答が、98年の39%から81%
倍増(読売新聞の世論調査、2001年6月)

『政治に対して非常に関心がある・まあ関心がある』が、6年前(1998年)の37.2%から04年では46.7%へ上昇(内閣府「第7回世界青少年意識調査」2004年1月)

2003年の衆議院選挙の投票率は、2001年の参院選に比べて20歳代の投票率が上昇(31% 35%)

(3) 教育者・おとなにも責任がありませんか？

高校生意識調査(武蔵大学、2001年)によれば、「20歳になった時に選挙に行く」と答えた高校生はわずか33%。政治に関心があるのに投票に行かない若者が現われるのは、今の教育にも責任がありませんか？

政治を身近に感じてもらえる仕組みが社会や教育の中にありますか？

▶ 市民性をはぐくみ、未来の有権者を育てる必要があります

模擬選挙実施による社会的効果

模擬選挙の社会的効果

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

模擬選挙の実施

未来の有権者が、選挙や政治について考えるきっかけとなる

総合的学習の一貫になる

親子・家族間の対話が増加

授業で学んだ選挙や国会の仕組みを現実感をもって理解できる

学校に活気が生まれる

親の政治的関心までも高める

政治社会問題に興味関心が湧く

勉強意欲の増大

政治を身近に実感できる

民主主義を支える、教育の責任を果たせる

現在および未来の投票率UP

「投票権が早く欲しい!」「いい体験ができた」 「投票する責任を痛感」

模擬選挙参加者の感想

模擬選挙における未来の有権者の感想(抜粋)



- ・日本は無駄な所で金を使いすぎていると思う。外国に金をあげる前に日本のことを考えてほしいと思った。早く投票権がほしいです。八年後はどうなってるだろう(03総選挙、12歳)
- ・投票するには責任が必要だとわかり、緊張した。(03総選挙、中学3年)
- ・自分で、「ああもうすぐ20才だ」という自覚や、選挙に対する思いが見えた気がします。(02町田市長選、18歳)
- ・20歳になって急に投票できると言われても、きっと困惑してしまうと思うので、こういう形で真剣に考えられる場があると、とても勉強になります。(02町田市長選、18歳)
- ・自分たちに最終的には影響してくるから、慎重に選ばないといけないという責任があることに気づいたし、成人になったら、それを負わないといけないと思うと、大変だと思う。(03総選挙、18歳)
- ・来年から選挙権をもつ者としていろいろ考えさせていただきました。いい体験をさせていただきました。(03総選挙、19歳)

上:東京都多摩市長選挙ユース模擬投票2002、中・下:ユース”模擬”総選挙2003(中:ぎふ、下:六本木模擬投票所)

「若い世代も日本の将来について無責任すぎる」 「基礎知識なしに投票なんてできない！」

模擬選挙参加者の感想

模擬選挙における未来の有権者の感想(抜粋)



・「選挙権の無い若者にも投票させる」という企画はとても有意義なものだと思います。(04参院選、15歳)

・なぜ学校で選挙の仕方、投票の仕方を学ばないのか不思議です。何も基礎知識無しにいきなり投票しろと言われても誰に投票したらいいのか分からないと思います。今回、模擬投票をしてみてわからないことがすごくたくさん出てきました。選挙権を持つ前にこのようにして経験することができたのはとてもよかったと思います。(04参院選、15歳)



・前回よりは主体的に投票できた気がします。こういった活動は絶対に無駄ではないとおもうので、ぜひまたやってください。(04参院選、19歳)

・選挙権のない私たちがこうして社会に意見参加できることはとても嬉しい(05千葉県知事選、17歳)



・子供なのに、投票できるのはとても嬉しかった。この投票は政治に関係するものではないし、私たちがどの人に投票したからといって都議会議員が変わるわけではないので、今度からは子供の意見も取り入れて欲しいと思う。(05都議選、13歳)

未来の有権者の政党別投票理由(04参院選)

投票理由

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

自由民主党

- ・ 小泉さん達なら、少しずつでも景気回復のための改革を一番やってくれそうだから。(17歳、女性)
- ・ 二大政党を描いて民主党を支持していたが、民主党はあまりにも浅薄に過ぎる。目先の今年しか見えていない批判、党としての指針がぶれ、党首の言動もぶれているこんな党を支持するには残念ながら出来ない。選択肢が自民党しかない、これが現実というのが哀しい。(18歳、男性)
- ・ 自民党は外交については及第点であるから。(19歳、女性)
- ・ 拉致問題、家族問題、教育問題で良識ある活動を行っているから(19歳、男性)

民主党

- ・ 自民党は嫌い戦争をしようとしているから。民主党を対抗勢力にしたいから(11歳、女性)
- ・ 興味があったから(14歳、男性)
- ・ 憲法第9条を守らなければならない。自民党は改憲を考えており不安を感じる年金については法案の成立が納得できないから(16歳、女性)
- ・ 教育に関して興味を持った。自民党をあれだけ批判するのだからその力を見てみたい。(17歳、男性)
- ・ 比例区の白氏には北朝鮮が拉致問題解決するためにはこの人が当選して拉致問題を解決(19歳、男性)

公明党

- ・ 公明党の公約は大きく前進していて、実現力があるから。(12歳、男性)
- ・ 政権公約のうち31項目が実現していること、また他の公約も約60項目進行中ということで、何かと期待できそうだったから。(14歳、男性)
- ・ 公明党は、神崎代表の下、マニフェストを確実に実現していっています。この不透明な社会にはやはり、常に忠実な姿の公明党ではないか、と思ったからです。(15歳、女性)
- ・ 教育に関して、スクールカウンセラーの配置を拡大するという考えの文章を見て公明党に投票しました。(16歳、女性)
- ・ 民主党が大嫌いだから(18歳、男性)

未来の有権者の政党別投票理由(04参院選)

投票理由

日本共産党

- ・ いっぱいある政党の中で一番、言ってる事に筋が通ってると思ったから。(14歳、男性)
- ・ 正直、一番今自分の考えに近い政策で、真面目に実直やっている党だと思ったから。選挙区の候補者の父は長崎で被爆していることもあり、平和を訴えて生きたいという。そのような考え方、言動に非常に希望を持つことが出来ると思ったから。(16歳、男性)
- ・ 税金の使い方や集め方を考えたり、中小企業への資金供給を増やしたり、景気回復を目指しているから。(17歳、女性)
- ・ 今後の躍進を期待して共産党にいました！(18歳、男性)
- ・ 戦争に反対で護憲、年金改悪に反対しているから。与党は論外。民主や社民も与党に似たようなところがある。(19歳、女性)

社会民主党

- ・ もし今、憲法9条を変えられてしまうと、私達が1番被害を受けるし、それに年金や消費税も私達の今後に大きく影響を及ぼすから、しっかり考える必要があるから。とても悩んだし、難しかった。でも、憲法9条改正や、年金問題、消費税の事など、私達が大人になった時のために意見を述べ続けたいと改めて思いました。(15歳、女性)
- ・ 憲法第9条の理念を一番に尊重してほしいからです。(16歳、男性)
- ・ 自然のことや安全のことやちゃんとしているから(17歳、女性)

みどりの会議

- ・ 環境問題を根っこから考えていこうとしているところだから、みどりの会議を選んだ。(12歳、女性)
- ・ 日本にも、欧米のような環境政党が必要だと思うから(15歳、男性)

その他

- ・ どの候補者の主張を聞いても、口先だけに聞こえたり、現実性や具体性がなくて、白票しか書けなかった…(18歳、男性)

模擬選挙の実施パターン

実施パターン

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

| | 主体(選挙実施担当) | 対象(投票者) | 投票日時 | 留意点 |
|----|-------------------|----------------|---------------------|-----------------------|
| 学校 | 教師 | 授業のうけもち生徒 | 授業時間内 | 他の教員や管理職への事前説明が望ましい |
| | 教師 | 全校または学年規模 | 授業時間外 (昼休み・放課後) | 他の教員や管理職への事前説明が必要 |
| | 生徒(生徒会・ボランティア部など) | 全校または学年規模 | 授業時間外 (昼休み・放課後) | 教員や管理職への事前説明必要 |
| 地域 | 街頭 | 街頭にいる 19歳以下 | 選挙期間中(平日夕方、土日の日中など) | 地元警察へ道路使用許可申請が必要の場合あり |
| | 合同個人演説会 公開討論会 | 19歳以下の参加者 | 演説会の場合は当日、討論会の場合は後日 | 演説会・討論会主催者との事前打合せ必要 |
| 全国 | ウェブ、ファックス、郵送 | 19歳以下 | 期日前投票日～投票日当日 | 専用URLやファックス番号の事前告知が必要 |

全体スケジュール

全体の流れ

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

| | | 学校・地域 | ライツ | 社会の動き |
|------|---|------------------------------|--|------------------------|
| 2ヶ月前 | 30日 | | ・ハンドブックの見直し、追加事項の確認 | ・立候補予定者の大まかな顔ぶれの報道が始まる |
| | 20日 | ・実施に向けたカリキュラム作成 | ・擬選挙実施呼びかけ | |
| | | | ・ハンドブックの配布 ・プレスリリース（模擬選挙実施呼びかけ） | |
| 10日 | ・実施に向けたカリキュラム作成 ・学校や地域団体におけるメンバーへの事前説明 | ・ハンドブックの配布 | | |
| | | ・各政党や立候補予定者への協力要請 | | |
| 1ヶ月前 | 30日 | ・公開質問状作成に向けた、生徒や10代向けアンケート実施 | ・公開質問状実施 | ・立候補予定者がほぼ確定 |
| | 20日 | ・模擬選挙に関する授業および事前説明会の実施 | ・公開質問状の回答公開 | |
| | | | ・政党訪問実施 ・プレスリリース（模擬選挙参加学校・地域の広報、ウェブ投票の呼びかけ） | |
| | | | ・マニフェスト、政党ポスターの収集 | |
| 10日 | | ・模擬選挙投票受付（告示日の翌日以降～） | ・選挙の告示 ・選挙戦スタート | |
| | | ・マニフェスト、政党ポスターの配布 | | |
| 当月 | | ・模擬選挙に関する授業 | ・プレスリリース（模擬選挙投票受付広報） | ・投票（選挙機関内） |
| | | ・模擬選挙の投票&集計 | | |
| | | ・投票結果をライツに送付（任意） | ・各地の投票結果を集計 ・各地の投票結果の分析 | ・当選者公表 |
| | | | ・投票結果を公表（記者会見、プレスリリース発表など） | |
| 翌月 | | | ・模擬選挙実践報告書の作成&配布 | |

学校での投票方法

実施パターン

(1)投票方法

各自生徒の席で候補者を選び、そのまま投票します

社会科室・昇降口などに「模擬投票所」を設置して投票(選挙公報やポスターを貼り出すなど、雰囲気作りをするとGood!)

投票用紙を渡す際、受付で二重投票の防止のために名前のチェックを行うと、本物の選挙に近づきます

(2)集計方法

各学校ごとに開票・集計(生徒による集計を行う場合は実際の選挙の開票後に行ってください)

投票用紙をRightsに送付し、Rights責任のもと開票・集計

各学校に投票結果を届ける

投票結果をRightsに報告頂ければ幸いです

投票結果は公職選挙法に抵触しないように、実際の選挙結果の開票後に発表してください



ユース“模擬”総選挙2003(武蔵高校)

授業の中で模擬選挙を実施

実施パターン

(1)授業で模擬選挙を実施(社会科・総合的学習など) 全2～3時間

| | |
|---|---|
| 1時限 ～ 2時限 | <p>国会の仕組みのおさらい 参議院議員選挙についての説明と、模擬選挙を実施することの説明 今回の選挙の状況と争点を中立的に説明</p> <p>例1:生徒に選挙関連の新聞記事を持参させ、グループごとに政党別に政策をまとめ(グループごとに政党を割り振る、各グループごとに全政党の政策をまとめる、など)、グループごとに各政党の政策を発表し各政党の政策を共有・理解する</p> <p>例2:生徒各自で政党別に政策をまとめてくる(課題レポートなど) 日の 時～ 時に、社会科室(あるいは昇降口前など)で投票を行うことを説明</p> |
| <p>**投票(昼休み・放課後、あるいは授業時間内)**</p> <p>投票を授業時間内()に行うことも可能です</p> | |
| 3時限 | <p>実際の選挙の開票が終了した後に模擬選挙の投票結果を公表し、実際の選挙結果および模擬選挙の全国集計との結果を比較する 模擬選挙を通じて感じたこと、考えたことを意見交換する</p> |

実際の選挙に似せた模擬選挙

実施パターン

(2)学校全体、学年規模で行う(生徒会や生徒有志の呼びかけなども可能)

| | |
|-----------------|--|
| 宣伝、事前準備 | <ul style="list-style-type: none">・先生などに協力を要請し、学校の承認を受ける・参議院議員選挙についての説明と、模擬選挙を実施することの説明を、全校集会やプリント配布などを活用して行う・宣伝用ポスターなど作って掲示板にはりだす・社会科の授業などで説明・宣伝を行ってもらうように先生に頼む・ 日の 時～ 時に、社会科室(あるいは昇降口前など)で投票を行うことを説明(校内放送など) |
| **投票(昼休み・放課後)** | |
| 集計 結果公表 | 実際の選挙の開票が終了した後に模擬選挙の投票結果を公表し、実際の選挙結果および模擬選挙の全国集計との結果を比較する 模擬選挙を通じて感じたこと、考えたことを意見交換する |

これまでの授業実践例

授業実践例

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

都立武蔵高校(松田先生) ~ 自由投票でも投票率は57%!

2003総選挙 授業は説明のみ

[投票前]

- ・選挙制度の説明
- ・公示日以降、新聞の選挙報道特集などを各クラスに張り出す
- ・棄権する自由があり、授業の成績とはまったく関係ないことを伝える
- ・保護者や家族がどんな風に投票しているかを聞いてくるようすすめた

[投票後]

- ・選挙後の授業で、実際の選挙結果との比較を行う
- ・投票は昼休み・放課後に行った 投票率は57%(高校3年生)

立命館宇治高校(杉浦真理先生) ~ 候補者や政策を調べて投票

2003総選挙 全2時間

[投票前]

- 1時限:新聞掲載の候補者アンケートの政党名を隠して予想してもらい、インターネットを使って調べる
- 2時限:年金、財政赤字、雇用対策など若年層に影響のある課題を説明
投票は授業時間内に実施(投票率は100%)

2004参院選 全3時間

[投票前]

- 1時限: Rightsが呼びかけた「政党本部探検ツアー」に参加するための質問の作成
オプション:「政党本部探検ツアー」に生徒約10名が参加し、国会議員にインタビュー
- 2時限:政党本部探検ツアーを踏まえて、各政党別に政策を発表



選挙公報を見る高校生(03年東京都知事選挙)

@都立武蔵高校

これまでの授業実践例

授業実践例

未成年「模擬」選挙ハンドブック2005

新潟市立五十嵐中学校(後藤先生) ~ 調べ学習を丁寧に行い投票
2003年総選挙 全8時間

- 1時限: 生徒の政治意識に関する実態調査
- 2時限: 衆議院議員選挙のしくみ(選挙の問題点、一票の重み、18歳選挙権)
- 3時限: 政党の意義と働き(立候補予定者の顔ぶれ、各政党と党首)
- 4時限: 各政党のマニフェストの調査
- 5時限: 選挙報道を見る(各政党の第一声、地元候補者の訴え)
- 6時限: 模擬投票の注意 & 投票
- 7時限: 模擬投票の結果発表 & 実際の選挙結果との比較
- 8時限: 生徒の政治意識に関する実態調査 (模擬選挙を終えて)

芝浦工業大学柏中学高校(杉浦正和先生) ~ 生徒会が投票を呼びかけ！
2003年総選挙

[投票前]

- ・各政党の党首第一声をまとめたプリント(社会科通信)を配布
- ・衆議院の解散の状況説明を高校1年生の授業で実施

[投票]

- ・投票は昼休み及び放課後に実施(投票率約60%)

2004年参院選

[投票前]

- ・各政党の党首第一声をまとめたプリント(社会科通信)を配布

[投票]

- ・投票は昼休み及び放課後に実施(投票率約50%)



上: コース「模擬」総選挙2003 @ 芝浦工大柏中学高校

下: 未成年「模擬」参院選2004 @ 芝浦工大柏中学高校

これまでの授業実践例

授業実践例

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

匿名参加校

2004参院選 全3時限

[投票前]

1時限: ポリティカル・ビンゴ(15分: ビンゴ&丸付け、30分: 解説)

2時限: 新聞ワークシート

(選挙関連の新聞記事を、政党別に政策をまとめる)

時間内に終わらなければ宿題

& 保護者や家族がどんな風に投票しているかを聞いてくるようすすめた

3時限: ワークシートの確認 & 投票

[投票後]

・選挙後の授業で、実際の選挙結果との比較を行う

2005都議選 全2時間

[投票前]

1時限: 都議選に関する新聞記事の配布 & 都議会を紹介するビデオ(15分)の視聴

保護者や家族がどんな風に投票しているかを聞いてくるようすすめた

2時限: 都議選の背景の説明 & 投票

[投票後]

・選挙後の授業で、実際の選挙結果との比較を行う



本物の投票箱に投票する高校生

@岩槻高校(04参院選)

地域での投票方法

実施パターン

(1)投票の呼びかけ

《街頭投票》

街頭を歩いている19歳以下に声をかけて趣旨説明を行う

支持する候補者や政党がない場合は、選挙公報などを渡して考えてもらう

投票用紙を渡して記入してもらう

制服を着て歩いている複数人のグループに声をかけると、誰かしらが反応を示すので投票してくれやすい

投票を呼びかける側(主催者)に制服を着ている中高生世代がいたら、親近感をもってもらいやすくなる

(2)集計方法

投票を行った場所ごとに集計を行なう

投票結果をRights宛に送る

投票結果は公職選挙法に抵触しないように、関係者以外に口外しないでください



実施のための準備

準備物

1: 作成物 = 投票グッズ(投票用紙、投票箱)

(1) 投票用紙

各学校や地域で準備(本物に近いもの / 感想欄付などオリジナルなもの)

Rightsが準備したものを使う(性別、年齢、選挙区名、記入欄、投票した理由、感想)

Rightsが準備したものにアレンジを加える

(2) 投票箱

各学校や地域で、ダンボールなどを使って作成する
選挙管理委員会から借りる

2: 準備

- ・選管から啓発グッズを取り寄せる
- ・公開討論会に参加する
- ・各候補者、各政党に質問状を送る
- ・新聞の切抜きなどを掲示する
- ・選挙公報を新聞の販売店や行政機関で数日前に入手する
- ・録画した政見放送を見る

| | | |
|-------|---|-------------------|
| 候補者氏名 | (注意) | 平成 年 月 日 執行 |
| | 一 候補者の氏名は、欄内に一人書いて下さい。 二 候補者でない者の氏名は、書かないで下さい。 | 選挙投票 |

実際の選挙で使われる投票用紙

政策について学ぶ

情報などの入手方法

1: ウェブサイトを活用

- ・全国会議員の情報(経歴、政策、考え方等) 構想日本
- ・各政党の政策比較サイト(大学生が作成) 「政論プロジェクト」
- ・公開討論会を全国各地でサポート リンカーン・フォーラム
- ・選挙情報専門サイト Election.
- ・総務省
- ・明るい選挙推進協会
- ・東京都選挙管理委員会

<http://db.kosonippon.org/>
<http://seiron.org/>
<http://www.touronkai.com/>
<http://www.election.co.jp/>
<http://www.soumu.go.jp/>
<http://www.akaruisenkyo.or.jp/>
<http://www.senkjo.metro.tokyo.jp/>

2: オプション企画の活用

・10代による公開質問状

10代に各政党に対して聞きたいことを挙げてもらい、数テーマ程度に絞ったものを各政党や立候補予定者宛に送付。回答はウェブなどを通じて公開

・10代による政党本部/選挙事務所訪問

10代が各政党本部や候補者の選挙事務所を訪ね、党首・幹事長・政調会長などと意見交換を行なう。訪問模様はウェブなどを通じて公開

・公開討論会/合同個人演説会

各選挙区内で行なわれる、主要候補者を招いた公開討論会に参加する。事前に主催者と交渉し、「未成年者席」を確保してもらうことも可能



政党本部探検ツアー(参院選04)@自民党本部

Rightsによるサポート

サポート

未成年“模擬”選挙ハンドブック2005

専用ウェブサイトの立ち上げ (参加するのに必要な情報をまとめます / ウェブ投票も行えます)

模擬選挙を実施する地域をまとめて、それに関係するマスコミに プレスリリース

模擬選挙そのものの全国プレスリリース

各政党などに対し、模擬選挙のために各政党の政策情報を提供するように協力要請を行う
(これまでに、比例区用のポスターや、各政党・会派のマニフェストを入手し、学校などに配布)

総務省・選挙管理委員会・明るい選挙推進協会などへの働きかけ

投票結果の全国集計および結果のフィードバック

協力団体・賛同団体などへの働きかけ

中高生とディスカッションを行なうための大学生などの若者の学校への派遣

10代による「政党本部探検ツアー」「公開質問状」の実施とそれに伴う質問の受付

公開討論会の実施の可否および日時をお知らせ

上記のサポートには実施予定も含まれますので、詳細はお問合せ下さい

選挙管理委員会等と協力するには

様々な対応について

(1) 選挙管理委員会

以前は、模擬選挙に対して否定的な見解を持つ選管が多かったのですが、昨今の低投票率への危惧から、最近は模擬選挙に対して協力的になってきています。

[連携例]

- ・選挙啓発グッズ、選挙公報の提供

都立武蔵高校(03総選挙、04参院選)、都立板橋高校(05都議選)、玉川学園高等部(05都議選)

- ・投票箱の貸し出し

新潟市立五十嵐中学校(03総選挙)、埼玉県立岩槻高校(04参院選)、都立板橋高校(05都議選)、玉川学園高等部(05都議選)

選管に連絡を取る必要がある場合は、模擬選挙の意義(投票率の向上など)や公平・中立に配慮することをお伝えください

(2) 管理職・教育委員会・保護者・地域

- ・模擬選挙の意義や公平・中立に気をつけることを説明してください。
- ・保護者に対しては教育の一環であることも説明ください。

(3) マスコミ

特に学校においてマスコミから取材依頼があった場合、管理職(校長、教頭など)にまず会っていただく事をお願いしてください。

中立の立場を守るために

注意点

(1)政治的中立性の確保

- ・特定の政党を支持、あるいは批判することを目的に模擬選挙を実施するのではなく、教育の一環として実施することを確認してください(学校や団体内で事前に御確認下さい)
- ・「模擬選挙実施による社会的効果」(別記)を確認してください
- ・各政党の政策などを教師やおとなが説明する際は、公正・中立な立場で行ってください
模擬選挙実施後に政党の政策などの説明を行うようにすれば、生徒は教師の説明に引っ張られる可能性が低くなります
マスコミ報道(新聞記事、テレビ報道、インターネットなど)を活用する範囲であれば、教師としてのバイアスを防ぐことができます
この場合、模擬選挙の投票結果が例えば野党寄りになったとしても、「マスコミが政権交代をあおっていたから」「与党批判の報道が目立ったから」などと説明することができます
- ・生徒がポスターを破るなどのいたずらを行った場合、実際の選挙では犯罪(公職選挙法違反)になると注意して下さい

(2)公職選挙法の遵守(特に第138条の3「人気投票の公表の禁止」)

(人気投票の公表の禁止)

第138条の3 何人も、選挙に関し、公職に就くべき者(衆議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体に係る公職に就くべき者又はその数、参議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体に係る公職に就くべき者又はその数若しくは公職に就くべき順位)を予想する人気投票の経過又は結果を公表してはならない。

模擬選挙の投票結果を、実際の選挙結果が公表されるまで公表しなければ、公職選挙法に抵触しません

模擬選挙の開票・集計を事前に教職員が行なうのは問題ありませんが、その結果は、実際の選挙結果が公表されるまでは外部に口外しないでください

よくある質問

Q & A

Q1. 各党・候補者の政策比較はどのように行えばいいのでしょうか？

A1. 政策比較をする際、注意すべきことは、やはり公平性・中立性への配慮です。具体的なツールとしては、以下のようなものが考えられます

新聞記事の政策比較や党首第一声などを配布する

選挙公報や公約集(マニフェストなど)を配布する

選挙公報は新聞販売店などで入手できますが、概ね実際の選挙の3日前ぐらいにならないと手に入りません

各選挙区で実施されている公開討論会へ参加する

実施されていない選挙区もありますので、リンカーン・フォーラム(「投票するにあたって必要となる情報などの入手方法」参照)のホームページでご確認ください

政策比較サイト(政論プロジェクトなど)を利用する

各政党の政策比較などを行う際は、教師やおとなの主観が入ったと受け止められないようにするために、各政党・立候補予定者のマニフェストやホームページ、新聞記事などを使うのがベストです

Q2. 模擬選挙を実施する際に気をつけなければならない点は？

A2. 以下の点にご注意ください

政治的中立性を守ってください

実際の選挙の結果が公表されるまでは、たとえ模擬選挙の開票作業を終えていたとしても模擬選挙の結果を公表しないで下さい。

実際の選挙結果が公表される前に模擬選挙の結果を公表すると、公職選挙法違反となります。

よくある質問

Q & A

Q3. 管理職や保護者をどう説得したらいいでしょうか？

A3. 以下の点をご説明ください

将来の投票率UPなど、模擬選挙の社会的意義は大きいものであること(社会的効果参照)

政治的中立性には十分配慮の上、実施すること

選挙管理委員会や文部科学省の中でも、模擬選挙の社会的効果が認知され始めてきていること

Q4. 学校で行なう場合、生徒にどのような説明が必要ですか？

A4. 以下の点を伝えるようにしてください

投票行為そのものは成績に関係しない

棄権や白紙投票の権利もきちんと保障する

投票前に各政党のマニフェストをクラスごとに配布したり、各政党のウェブサイトや新聞・テレビなどを見るように勧め、また、地域の公開討論会などへの参加も呼びかける

家庭で保護者や兄・姉などと選挙について話すように勧める

Q5. 実際の選挙制度にどこまで近づければいいですか？

A5. 以下を御確認のうえ、それぞれの学校や地域の実情に応じた形で実施してください

学校の選挙区と異なる選挙区に住む生徒がいる場合(国政選挙)

次のいずれかを学校側で判断 A学校の選挙区に全員統一 B生徒の住んでいる各選挙区を基準
模擬選挙を実施する選挙区に生徒が住んでいない場合(地方選挙/国政選挙の補欠選挙など)

選挙区に住んでいない生徒に限り、学校が所在する選挙区で行なう

地域で行なう場合

投票用紙に年齢や居住地(都道府県及び市町村まで)を記入してもらい、投票者の属性を把握する

プレスリリース・賛同・協力・問合せ先

プレスリリース(順不同)

・東京新聞 ・朝日新聞 ・産経新聞 ・読売新聞 ・日本経済新聞 ・毎日新聞
・千葉日報 ・共同通信 ・時事通信 ・タウンニュース ・JanJan など

賛同 選挙権年齢の引き下げを求める国会議員懇談会
(自民・民主・公明・共産・社民各党の超党派の国会議員が参加)

協力 政策シンクタンク・構想日本 / Seiron / G-net / 社団法人東京青年会議所 ほか

<呼びかけ・お問合せ> 不明な点はお気軽にご連絡・ご相談下さい

特定非営利活動法人 Rights (ライツ)

住所： 〒106-0032 東京都港区六本木4-7-14みなとNPOハウス4F

TEL&FAX： 03-3796-0822

担当者直通TEL： 090-1991-7458(林)

E-mail： info@rights.or.jp

URL： <http://www.rights.or.jp/>